



この町で、この地で笑って老いたい ~そのために今すべきこと~

【まち協だより】

令和7年1月号

電話(FAX) 82-0933

発行: 山上まちづくりの会事務局

●日南病院の新しい総合診療科について

日南病院では、地域の皆さまにさらに安心して医療を受けていただけるよう、数年後を目標に「総合診療科」を開設する予定です。総合診療科では、年齢や病気の種類を問わず、幅広い症状やお悩みに対応します。「どの科を受診すればいいかわからない」「急な体調不良で困った」というときに、頼れる窓口となることを目指しています。

●総合診療科はこんな時にご利用ください

1. 急な体調不良で困ったとき

例えば、お子さまが夜に急に熱を出したけれど、小児科の診察日は3日後で心配…そんなときでも総合診療科が対応します。症状を確認し、治療を行い、必要に応じて小児科医に紹介するなど、柔軟に対応します。曜日や時間を気にせず、まずはご相談ください。

2. どの診療科に行けばいいか迷うとき

例えば、「数日前から息苦しいけれど、心臓なのか肺なのか分からない…」という場合でも、総合診療科の医師が全身を診察し、原因を判断します。必要に応じて専門の医師や病院を紹介しますので、安心してお越しください。



●総合診療科の強み

市街地の大病院まで行かなくても、まずは日南病院で診察を受けることができます。診療内容に応じて適切な治療を行い、必要に応じて迅速に専門医療機関と連携します。総合診療科は皆さまの「医療の入口」として、身近で頼れる存在を目指します。

●総合診療科のもう一つの役割

総合診療科には、「家族・生活背景まで診る」という役割があります。家族の状況を含めた生活環境、職場環境などが病気に影響している場合があります。また、患者個人のみならず、生活を支える家族のケアも必要とされています。総合診療科では、そのような病気そのものではなく、患者周囲の背景も考慮してアプローチします。

●日南病院における総合診療科の位置づけ

将来的に人口が減少していく日南町では、現在の内科や外科などの診療科を総合診療科の一部門として統合し、診療科を簡素化していく方向で検討を進めています。地域の医療を維持・強化するため、効率的で質の高い医療体制の構築を目指しています。

気軽に相談できる窓口として、どんな小さな症状でもご相談ください。日南病院は、あなたとご家族の健康を全力でサポートします。

●冬の寄せ植え教室

【住民学習部】

寄せ植え教室を12月22日曜日に開催しました。上石見の後藤厚見さん夫妻を講師に招き、16人が受講しました。この日は寄せ植えのほかに、サプライズでお正月用のおめでたい箸置きも作りました。



暖かい第1会議室で教わりました。



研究の成果を実践へ

13 前編

山上に帰った岩雄は、広島での二年間の研究を生かして、学校の中に次々と新しい試みを取り入れていきます。その中でも、いちばん力を入れたのは、広島で研究した綴方つづりかたの力を子ども達につけることでした。

低学年にはなるべく長い文を書かせるようにし、高学年には日記を書かせることに努力し、書く力をつけると同時に心の教育にも役立てようと考えました。

日記は、その後も山上小学校の一つの特色にもなり、「習慣になって、その後ずっと日記を書いています。」と、いう人もあります。

広島から帰った岩雄が取り組んだ仕事にもう一つ、松蔭舎しょういんしゃのことがあります。

これは、校庭の端に植えられた赤松の木のひとつに、木造二階建てのうちを建て、松蔭舎と名づけました。

ここでは、高等科(六年生を終わった子ども)の生徒が順番で代わりばんに泊まって、先生方と生活を共にするのです。夕方やって来た生徒は、前の井戸から水をくみ、風呂をたき、炊事をして、夕食と一緒に食べて、その後、夜の勉強に入ります。朝は、先生も生徒も外に出て冷水摩擦まさつをしたあと、中に入って訓話を聞いて朝食を取り、それから学校に出かけていくのです。これは、生徒と先生が生活を共にして、人間としての大切なことを学ぶという考えから始めたものでした。そして、これは、根雨の高等小学校から帰ってきた時に岩雄についてきた子や、その後預かった他の村の子どものための松蔭村塾しょういんそんじゅくに対して、山上村の子ども達を共同生活させるためのものでした。

